

昭和

—戦前戦中のくらしと映像—

企画展

はじめての物語

昭和時代のはじめの足立区の人々のくらしのようす。
戦争時代の子どもたちの生活。
当時撮影された8ミリフィルムのビデオ上映も。



昭和はじめのくらし再現

7月23日(火)から9月16日(祝)

ボクモワタシモゲンキデガンバッタ

足立区立郷土博物館

〒120-0001 東京都足立区大谷田5-20-1
TEL03-3620-9393
FAX03-5697-6562

講演会

7月28日(日) 午後2時から3時30分

「学童疎開の記録を追って」 堀川 和夫氏(足立史談会会長)

8月17日(土) 午後2時から3時30分

「足立区への疎開体験」 小川誠一郎氏(慶應義塾大学名誉教授)

■開館時間 午前9時から午後5時(入館は午後4時30分まで) ■休館日 月曜日(ただし9月16日敬老の日は開館)

■入館料 一般200円(高校生以上) ■無料公開日 第2・第3土曜日

●交通案内 JR有楽町線北口より 東武バス「八潮駅南口」行きで(足立郷土博物館) 下車 徒歩1分

JR有楽町線北口・千代田線綾瀬駅西口より 東武バス「六ツ木郷住」行きで(東瀬江産園) 下車 徒歩3分 駐車場あり

ごあいさつ

平成になって四半世紀を迎え、昭和という時代も次第に遠くなりました。豊かな時代の幕開けの象徴であった東京オリンピックも50年前になろうとしています。足立区は昭和7(1932)年に誕生しましたが、そのころの時代の生活も、平成生まれの人には想像のできないむかしの暮らしになろうとしています。

とくに、太平洋戦争の前後は、特殊な状況のもとで人々の暮らしは制限され、厳しい生活を過ごしました。空襲の被害を防ぐため都市からの疎開が決定されたのはちょうど70年前です。

今回の企画展では、昭和初期の生活のようすをたどりながら、戦時下の生活や足立区の子どもの学童疎開について紹介します。また文化遺産・歴史画像調査で復元編集した8ミリフィルムの貴重な映像で、昭和はじめの足立区の人々のいきいきとしたようすもご覧いただけます。

① 昭和はじめの人々

昭和時代のひとたちの衣服や、使っていた生活の道具、遊びの道具など、80年くらい前のむかしの道具を紹介します。



家族の肖像

(大東京合併記念 旧西新井町 昭和7年)

② 昭和はじめの足立区

足立区のできたころの地図やまちの人たちの活動を紹介します。



新区内町界名変更案原図
千住町(部分)昭和7年

展示構成



③ 戦時下の生活と学童疎開

戦争のあった時代の生活のようすや、空襲にあわないために家から遠くに離れてくらす子どもたちのようす。戦争が人々にあたえた影響をもう一度考えてみます。



標語スタンプ

「危機は空から油断から」



疎開児童絵画「学問は戦間なり」
千寿旭国民学校
初等科五年 伴猪一郎



8ミリビデオ
フィルム
上映しています



省線 北千住駅

昭和の初期に撮影された、北千住駅、千住のやっちゃ場、防空演習など、貴重な映像を上映しています。

インターネットは



足立区立郷土博物館の地図